

# おいでん・さんそんSHOW

4月号  
2019.4.01発行

足助  
あすけ

## 「新盛里山耕10周年記念誌」完成

「楽しさ」に立ち戻る活動のこれから



新盛里山耕10周年記念誌を手にする内藤俊巳(ないとうとしみ)さん(左)、鈴木邦夫(すずきくにお)さん(中)、鈴木辰吉センター長(右)

内藤 単なる情報だけでなく、  
実施内容など具体的な情報を載  
せました。  
辰吉 どんな内容が掲載されて  
いますか？  
邦夫 10年間の活動記録を紐解  
き、各種講座の説明だけでなく、  
会場、講師陣、参加費、開催日や

節目を迎えての想い、これか  
らの展望について、記念誌編集  
の中心となった鈴木邦夫(以下、  
邦夫)さんと、内藤俊巳(以下、内  
藤)さんに鈴木辰吉センター長  
(以下、辰吉)が聞きました。

今年3月で10周年を迎え、  
発行したのが「新盛里山耕10周  
年記念誌」(94ページ・フルカ  
ラー)です。

「自分たちの手で故郷の美し  
さを取り戻したい」。定年退職間  
近の仲間が始めた「新盛里山耕  
流塾」(以下、里山耕)は、平成20  
年度から、里山ならではの楽し  
みや技術を体験できる講座、市民  
農園などを主催し、都市住民と  
交流しながら、里山や農地の荒  
廃を解消してきました。

豊田市のまちに通勤し、自宅  
のある足助・新盛自治区には寝  
に帰るだけの暮らし。ふと気が  
付くと、子ども時代にあったは  
ずの美しい里山の風景が失われ  
ていました。



平成20年度里山暮らしコースの集合写真

邦夫 立ち上げ当初は、不安は  
かりで、とにかくふるさとへの  
責任感でやってきました。

辰吉 10年という長い年月がた  
ちましたが、今の率直な想いは  
いかがですか？

内藤 これから地域づくりに取  
り組む他の地区や、次の世代の  
方たちの参考にしてもらいた  
いのはもちろん、これまで里山耕  
に直接関わりの無かった地元住  
民にも見てもらいたいと思ひ、  
新盛自治区の全戸に配布する予  
定です。

なぜ里山耕が始まったのか、発  
足の背景や、途中ですげの里が  
建設され、どんな展開になった  
のかなど、大きな流れがわかる  
ような構成にしております。  
辰吉 誰に読んでもらいた  
いですか。

記念誌に  
10年の重みがずしり

近頃、ティール組織にハマってい  
る。いかかわしい団体や新興宗教  
に凝ったというのではない。』組織  
はティールに向かうという経営・  
組織マネジメントの考え方に夢

中なのだ。  
フレデリック・ラルー氏の著書  
『ティール組織』では、人類が文明  
を持ち始めたころから、組織は革  
新を続けてきたとしている。独

多元型(グリーン)に移行し、究極  
の進化したティール(青緑色)へと  
向かうのだという。ティール組

織は、個々が強みを生かし合っ  
て、全員が組織の存在意義と方向性  
を共有し、それを判断基準として  
分権的、主体的に行動する。上司、  
部下の関係は存在せず、メンバー  
が自己実現を目指す過程で生み  
出される力を、組織が社会的使  
命を果たすための原動力として  
活用するという考えである。

の専門部会のネットワークに加  
わり、多様な働き方を許容しつ  
つ、自己実現を図りながら組織目  
的の達成に努めている。目指した  
訳ではないが、ティールに向かっ  
ているのではないか。  
経済成長しているというが、  
人々に幸せが広がっているだろ  
うか。ティール組織がフツーに  
なったミソは、仕事と自己実現  
暮らしが融合し、人々は真の幸  
せを手にするのだと思う。

### センター長の ミライのフツーに 向かって！



センター長  
鈴木辰吉

裁的なリーダーが率いる衝動型  
(レッド)から軍隊のように行動が  
規律化された順応型(アンバー)／  
琥珀色に、そして、現在多くのゲ  
ローバル企業が採用利益の最大  
化を追求する達成型(オレンジ)  
に移行する。さらに組織は、短期  
的な利益だけでなく、持続可能  
な社会に向けて個性を重んじる

最大の効果を生み出すため、私を  
始め8名のスタッフが、特定課題

TEL: 0565-62-0610 FAX: 0565-62-0614 mail: info@toyomori.org

## イベント情報

### 第9期豊森なりわい塾 塾生募集 & 募集説明会のお知らせ

山村をフィールドに、「あるく・みる・きく」ことを通して学び、いっしょに、これからの生き方、働き方、社会のカタチを考えませんか？

【概要】

- 期間 | 2019年5月～2020年2月(毎月1回、第3土日の2日間予定)
- 場所 | 愛知県豊田市内
- 定員 | 20名程度
- 受講料 | 3万円(全回分) ※交通費等は別途自己負担
- こんな事を身につけます | ■暮らしを創る力～地元の方たちや、山里に移り住んだ先輩たちとの交流を通して、自然の恵みを生かし、地元へ寄り添った暮らしがどんなものなのかに触れます ■地域を支える力～地元学や聞き書きを通して、地域を知り、地域に愛着を持ち、地域に溶け込むとはどういうことか体感します ■なりわいを構想する力～地域の課題やその解決の模索を通じて、新たなコミュニティビジネスを創出するヒントを得ることができます。 ■志をともにする仲間づくり～1年間の講座・活動をともにする事で、同じ志を持つ仲間ができます

- こんな人を募集します | ■これからの生き方、働き方を真剣に考えたい人 ■まちに住みながら、山村との交流(つながり)を深めたい人 ■「半農半X」的な暮らしを求めている人 ■Uターン、Iターンなど、将来、田舎に住みたい人 ■自然資源を生かしたスモールビジネスに関心がある人 ■都市や山村の抱える課題を学び、何か行動したい人 ■一緒に活動できる仲間を求めている人

- 主催 | 豊森実行委員会(一般社団法人おいでん・さんそん、NPO法人地域の未来・志援センター、トヨタ自動車(株)、豊田市)
- 応募条件 | ・18歳以上の方 ・1年間のカリキュラムに積極的に参加できる方 ・当プロジェクトの主旨に賛同し、積極的・自発的に活動を広げられる方

- 応募締切 | 2019年4月15日(月)
- 募集説明会
- 日時 | 2019年4月7日(日) 14:00～
- 場所 | 豊田市青少年センター会議室A
- プログラム(予定) | ・塾長、澁澤寿一(しぶさわじゅいち)が語る「豊森が目指すもの」・センター長が語る「豊森とおいでん・さんそん」・卒業生数名による豊森体験トークセッション他、講座や塾生の様子を紹介、第9期募集の概要説明、質疑応答など
- 問合せ | 豊森なりわい塾事務局(おいでん・さんそんセンター)

TEL: 0565-62-0610 FAX: 0565-62-0614 mail: info@toyomori.org



講座の詳細、募集説明会への参加申込はこちら

<http://www.toyomori.org/>



REPORT



# 第10回とよたビジネスフェア

持続可能なミライに向けた幅広い取組をPR



(左)SDGsの目標を現したパーティハットをかぶるセンター長 (右)会場の様子

3月21日(木)～22日(金)、第10回とよたビジネスフェアがスカイホール豊田にて開催されました。テーマは「新たなつながりがミライをひらく」です。西三河最大級のこの総合展示会には、ものづくり、環境・エネルギー、情報通信から健康、公共・大学など113もの事業所・団体が、他社とのつながりを求めて出展しました。

おいでん・さんそんセンターも、未来都市推進課の「SDGs(※)未来都市」PRのブースの片隅をお借りして取組を紹介しました。持続可能なミライに向けたセンターの幅広い取組は、多くのSDGsの

目標達成に貢献しています。

この日、未来都市推進課が用意していたパーティハットには、「環境」の土台の上に「経済」、「社会」にかかる目標があり、「パートナーシップ」でつながってSDGsを達成しようというメッセージが込められています。(鈴木辰吉)(※SDGs…Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略称。2015年9月の国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標)17のゴール・169のターゲットから構成されている)

REPORT



# 冷田自治区栃本町で桜の森づくり植樹祭に25家族77名が参加



MY桜の成長を見守りながら地域と関わる



(左)慎重に桜の苗木を選ぶ (上)MY桜と記念撮影

3月3日(日)、足助地区の冷田自治区栃本町で、桜の森づくり植樹祭が開催されました。栃本町では愛知県の平成28年度「あいち森と緑づくり事業」により集落の南側斜面の整備がされ、この斜面に桜を植えて美しい里山の景観を維持・継承していこうと、地域住民はもちろん、おいでん・さんそんセンターを通して広く参加者を募り、昨年より植樹祭を実施しています。

自治会長の天野正直さんは「苗を植えてくれた子ども達と桜と成長を見比べながら、毎年楽しみに訪れて欲しい」と挨拶。桜は「日本さくらの会」から寄贈を受け、昨年は50本、今年は110本の苗木を植え、参加者はそれぞれ植えた苗木に名板を取り付け、MY桜として年に2回、草刈り作業や交流会にも参加しながら、桜の森の成長に関わります。

13戸の集落である栃本町に、名古屋市や日進市など近隣の市町村はもとより、岐阜県や三重県などからも25家族77人の参加があり、桜の森併設の、地元の冷田小学校4年生らが作る「えがお咲く桜のパーク」ではブランコや丸太渡り、エアロープウェイなどで遊ぶ子どもたちの交流も大盛況でした。

また、お昼には地元の女性陣が作った温かい豚汁や自然薯ご飯、

何種類もの自家製漬物に参加者からは「おかわり!」の声がたくさん出ていました。

懇親会に参加し、現地視察もされた太田豊田市長は『人生100年時代、どう生きるかが問われる。JAの柴田組合長は「農業が高齢化で大変というが、年をとってもできるのが農業!」とおっしゃった。まさに農林水産業がこれからの生き方のヒントになるはずだ。これからも栃本のような豊田市のくらしに是非ふれて」と挨拶されました。

名古屋市から参加の小林さんは「山村に関心があり、移住を考えている。このようなイベントは地域の雰囲気や子ども達の様子にじかに触れられ、とても参考になる」と感想を話されました。

昨年の参加者からの希望で、MTBコース「おいでんトレイル足助栃本」が整備され、近くお披露目の予定。今年の参加者からの希望で、懇親会の会場にもなった専蔵寺でのサマースクールも企画されています。交流から地域が動き出す栃本町に、今後も注目していきたいと思います。(松本真実)



記念誌のページをめくると、「これだけのことをやってきたんだな」という実感が湧いてきます。内藤 各々の講座の紹介部分に、まちから来ていた参加者の声や、地元の講師陣の声を掲載しています。



1ページずつじっくり眺めてみると、「里山耕を楽しみ、自然や人に触れて意識が変わった人がこれだけいたんだ」と、とても感慨深いです。  
**耕作放棄率の減少と新たな拠点の増加**  
辰吉 地元の地域にはどんな変化がありましたか?  
邦夫 新盛自治区の菅田和集落の耕作放棄率が71%だったのが28%に減少しました。トヨタ自動車労働組合の農業体験事業や、市民農園に加えて、地域住民が自分の農地を再び耕作するようになりました。  
内藤 多様な農山村交流を実践したことで、主体的に取り組む機運が高まり、獣肉処理施設「山恵」や、ヤギを環境整備に利用する「めえプルファーム」、デイサービス型地域活動支援センター「畦道」、ジビエが食べられるカフェ「M」など新たな拠点施設が次々と生まれています。

**悩み続けた人材不足**  
辰吉 10年続ける中で、苦労したこともあったのではないのでしょうか?  
邦夫 これまでずっと人材不足に悩み続けてきました。定年退職の年齢引き上げという社会的な変化の影響もありますが、里山耕のバトンを渡す人材がいな  
**楽しみながら続けるより「楽しい」に立ち返る**  
辰吉 活動をやるものではなく、持続可能な形で継続するということですね。  
邦夫 はい、「楽しい」という原点に戻ると言えます。里山耕を始めた平成20年頃は、新しい人たちとの出会い、新たなチャレンジなど、とにかく楽しかった。すげの里が建設されてからは、単に楽しいというより、責任感や義務感が勝ってきた。運営も複雑になってきた。そこには後継者不足の壁も立ち  
いまま、今に至ってしまいましたが、10年たつて主要なメンバーが高齢化していて、このままでは継続が困難です。  
2019年度から一般社団法人おいでん・さんそんが、豊田市里山暮らし体験館すげの里(※)を指定管理者として運営していくのに合わせて、里山耕の事業規模を見直していくことを決めました。

取材の後、邦夫さんと内藤さんは早速、新盛自治区の山をフィールドとして構想中の計画について目を輝かせながら教えてくれました。  
豊田市の山村部で、10年間、地域づくりのトップランナーとして走り続けてきた里山耕。  
地域づくりは、「正しい」だけでは続かない。「楽しい」に立ち返った里山耕が、どのような道を歩むのか。楽しみです。(文・木浦幸加)



10年の経験・実績が詰まった「新盛里山耕10周年記念誌」が購入できます。  
おいでん・さんそんセンター、すげの里にて、税込1,000円で販売しています。  
お問合せは、TEL0565-62-0610まで

(※)豊田市里山暮らし体験館「すげの里」は、新盛町にある施設です。自給自足によるかつての里山の暮らしを意図して、薪ボイラーや薪ストーブ、太陽光発電などを導入しています。里山暮らしの知恵と技を学び、交流や研修の場として活用できるよう、会議室、調理室のほか囲炉裏のある談話室や簡易宿泊部屋も設けています。